

年 組 名前：

被団協にノーベル賞 県内から喜びの声

ノルウェーのノーベル賞委員会は10月11日、2024年のノーベル平和賞を核兵器の被害に遭った日本全国の被爆者たちでつくる日本原水爆被害者団体協議会（被団協、東京）に与えると発表しました。

「核兵器が二度と使用されてはならないことを証言を通じて示した」と評価されました。被団協は今年で結成68年です。核兵器による被害が実際にどのようなものかを世界に訴え続け、核兵器をなくすための運動を長年リードしてきました。山梨県内で核兵器をなくすための運動に取り組む団体に関係する人たちや被爆者は「これまでの活動が実を結んだ」と



「受賞は核兵器の廃絶を願う国際社会からの期待の表れ」と受け止める県原水爆被爆者の会の日向偉夫会長
＝身延町内

喜びをかみしめました。被団協の地方組織の一つである「県原水爆被爆者の会（甲友会）」の日向偉夫会長（78）＝身延町＝は「これからの未来に向けて核兵器を二度と使ってはならないという願いをつないでいくことが重要だ」と話していました。

（2024年10月17日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと10面）

問1

被団協が、ノーベル賞を受賞しました。どのような人たちでつくられた協議会ですか。

.....

問2

被団協は、どのような活動が評価され受賞しましたか。

.....

問3

2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞した、山梨にゆかりのある人を教えてください。

.....